

昨年8月に豊橋市の国際交流員として着任したジェイク・ヤスマリさんがこのコーナーを担当します。

ジェイク・ヤスモリ

Jake Yasumori

豊橋市国際交流員

Toyohashi City Coordinator for International Relations



第2回 ハワイで生まれ育った僕

読者の皆様、こんにちは。お元気でいらっしゃいますか。今回は僕の過去、ハワイでの幼い頃についてお話ししたいと思います。おそらく大半の人にとって、ハワイと言えば最初に頭に浮かぶのは綺麗なビーチがあり、豊かな自然もある観光地でしょうか。ですが、今回は僕の過去の話、生まれた頃からハワイに住んでいた人の話を通して「それとは違ったハワイ」を皆さんに少しでもお伝えしたいと思います。

僕は平成元年、4月29日にマウイ島で生まれました。しかし、僕が2歳か3歳の時に、母と父が離婚し、その後母は別の人と結婚をして、僕は母と義理の父と一緒にオアフ島に引っ越しました。母と父が離婚したとは言え、別に仲が悪かったというわけではありませんでした。そのため、毎年夏の間、僕は飛行機に乗って、マウイに住んでいる父と母方の祖父母と一緒にのんびりした時間を過ごしました。

その毎年の夏の時間は、僕にとって大事な思い出です。父はガソリンスタンドの店長で、仕事で結構忙しかったので、昼間はおじいちゃんとおばあちゃんの家で時間を過ごしました。当時のおじいちゃんは消防署長として仕事をしていたため、長い時間家にいなかったときもありました。ですので、基本的におばあちゃんと昼間を過ごして、父とは仕事が終わってから、または休みの日に一緒に時間を過ごしたわけです。

休みの日に父は四駆の古くて黒いトラックで、僕をマウイ島のあっちこっちに連れていき、「‘oama（オアマ）」という魚（アカヒメジとモンツキアカヒメジの

稚魚）の釣りをするのが趣味でした。釣りに行くときは朝早起きをして、スーパーで白パンと冷凍した生エビといった釣り餌を買いに行って、どこかのビーチで竹の釣り竿で魚を釣りました。そして釣ったオアマを生き餌として使って、マウイ島にあるカフルイ湾で「papio（パピオ）」という魚（カスミアジの稚魚）を釣ろうとしました。パピオを釣ったらおじいちゃんとおばあちゃんに釣った魚を分けて、残りの半分を家に持つて行って調理をしました。

父が仕事で忙しかったときはおばあちゃんとゆっくりした時間を過ごしました。日本語の一言でいうと、おばあちゃんは引きこもりで、服や生活に必要な物の買い物以外、わざわざ家を出ることはめったにありませんでした。したがって、僕はおばあちゃんと一緒におばあちゃんの好きなドラマを見たり、テレビゲームをしたりしました。年齢の割におばあちゃんはテレビゲームが大好きだったので、スーパーファミコンのゲームを山ほど持っていました。その中で日本製のRPG(ロールプレイングゲーム)が特に多くて、僕は『ゼルダの伝説 神々のトライフォース』、『ファイナルファンタジー VI』や『MOTHER2 ギーグの逆襲』の英語版を飽きずに何回もクリアしたことばは今でも覚えています。振り返ってみると、日本へ興味を持つ最初の種はおばあちゃんのおかげかもしれません。

いかがでしたか。ハワイで生まれ育った一人の話を読んで、ハワイでの生活はどういうものなのかをちょっと想像できたでしょうか。日本では幼い頃の僕と同じような生活を送っている少年もおそらく少なくないでしよう。では、また次回！

うまいもんや
鰯松

Umaimonya TAIMATSU

〒440-0881 豊橋市広小路2丁目24
TEL(0532)52-8601

■営業時間／17：00～23：00（L.O. 22：00）
■定休日／（日・祝）予約のみ営業